

withコロナ時代と 部活・サークル/1年生問題

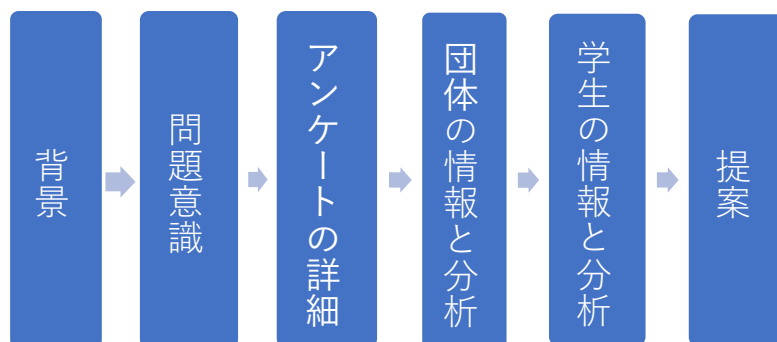
～交流の場はなくなる?～



6班
班長：木崎拓真 副班長：久米山幹太
オンライン：北口立大 資料：広兼靖也
記録：渡辺莉緒 渉外：米田有希
担当教員：谷口守 TA：清水宏樹



最終発表の流れ



筑波大学の状況

・筑波大学から出された課外活動に関する情報

緊急事態宣言発令 緊急事態宣言解除

4月

5月

10月

12月

- 課外活動の全面自粛要請が出される
- 敷地内立ち入り禁止

- 緊急事態宣言は解除されたものの、4月からの対策は継続

- 部活・サークルの活動再開許可が降りる
- しかし様々な条件付き...

- ガイドラインは10月から変わらず
- 茨城県の外出自粛要請→活動規制の項目追加
- しかし、県の自粛要請解除に伴い、大学側も解除。

→ 各部活・サークルの活動・新歓が行えなくなる

筑波大学ホームページより
<http://www.tsukuba.ac.jp/about/antidisaster/covid-19-list.html>



他大学の状況 ～近隣の国立大学～

2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

茨城大学				活動禁止			活動禁止（学内）		※1
千葉大学									※2
東京大学									
筑波大学									※3

図1 他大学の状況

※1 10/12～15に開催された「新型コロナウイルス感染症感染防止対策研修会」に参加、対策に取り組むこと（学内）

※2 感染予防策を踏まえた活動再開計画書を大学が審査、基準を満たしていると判断されること

※3 感染防止対策・健康管理・3密回避等の感染防止対策の厳守が条件

各大学ホームページより



問題意識



部活・サークルはどう活動すればいいのだろう?

1年生は部活・サークルにどう向き合えばいいのだろう?



問題解決のために

部活・サークル側と学生側の問題解決を行うために
それぞれの部活サークル活動の実態を把握する必要がある



アンケート調査で
「部活・サークルの実態」「1・2年生の実態」
を調査

部活・サークルに対して

対面活動を行っているのか、活動の変化
活動形態と交流度合い

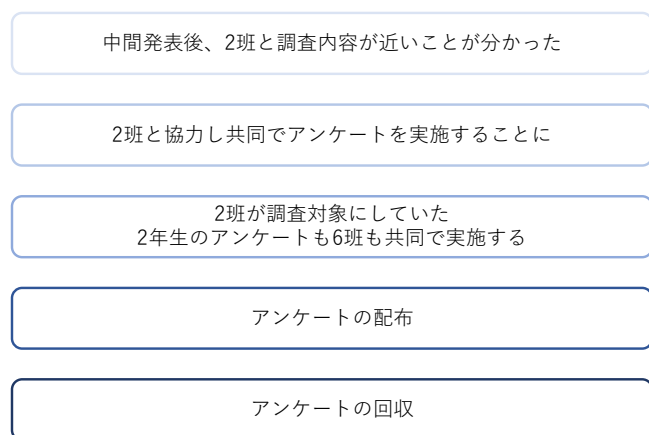
1・2年生に対して

部活・サークルに入っているか
交流度合いと活動満足度



中間発表後のアンケート実施の流れ

7



部活・サークルに対するアンケート

8

表1 部活・サークルに対するアンケートの概要

調査名	部活・サークル活動の現状と1年生の動向に関する実態調査
調査対象	筑波大学が管轄している学生団体である 課外活動団体 (135団体) 一般学生団体 (115団体) 計250団体
調査目的	コロナ禍における部活・サークル活動の実態把握
配布・回収方法	各部活・サークルに直接メール で代表者にアンケートを送付
実施期間	2020年 11/23～12/3
回収部数	43部

1年生に対するアンケート

9

表2 1年生に対するアンケートの概要

調査名	筑波大学の1年生への部活・サークルに対する意識調査
調査目的	コロナ禍における部活・サークル活動が1年生にとってどのような立ち位置となっているか明らかにする
配布・回収方法	筑波大学の1年生にSNSでアンケートを送付する
実施期間	2020年 11/30～12/7
回収部数	99部

2年生に対するアンケート

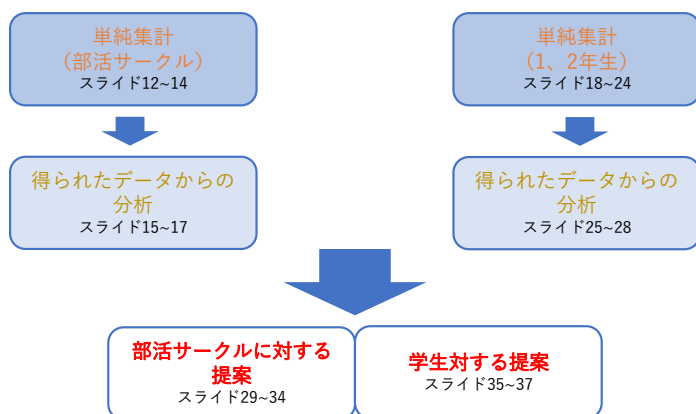
10

表3 2年生に対するアンケートの概要

調査名	筑波大学の2年生への部活・サークルに対する意識調査
調査目的	コロナ禍における部活・サークル活動が2年生にとってどのような立ち位置となっているか明らかにする
配布・回収方法	筑波大学の2年生にSNSでアンケートを送付する
実施期間	2020年 12/4～12/7
回収部数	65部

今後の流れ

11



単純集計
～部活・サークル編～

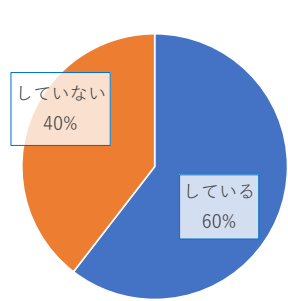


図2 現在対面活動の有無 (n=43)

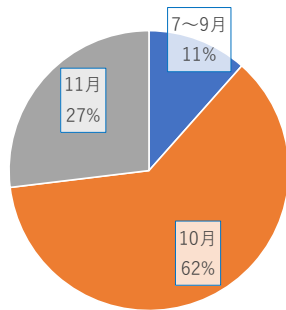


図3 対面活動の再開時期 (n=26)

オンライン活動は昨年度と異なる活動になることが多い

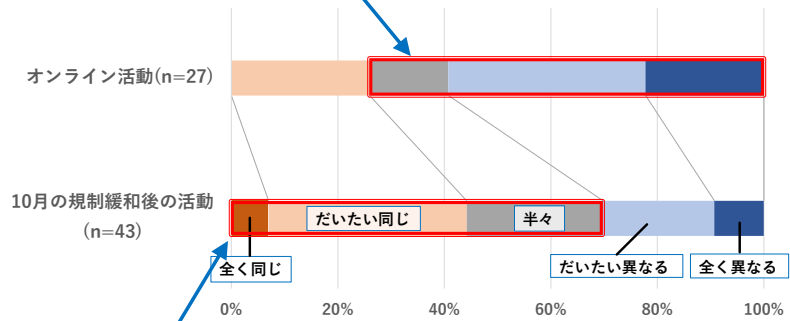


図4 昨年度の活動との比較

対面活動の実施要件が緩和された後は、昨年度と同じ活動となる人が多い

部活・サークルに関する分析

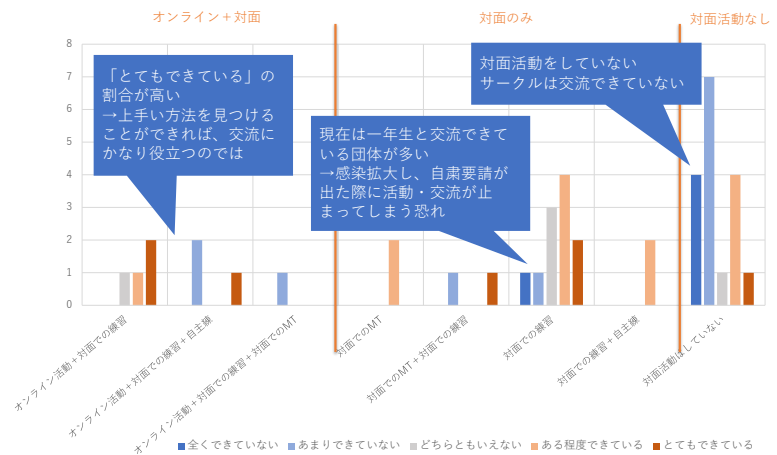


図5 10月以降の対面での活動形態と一年生との交流度合いの関係

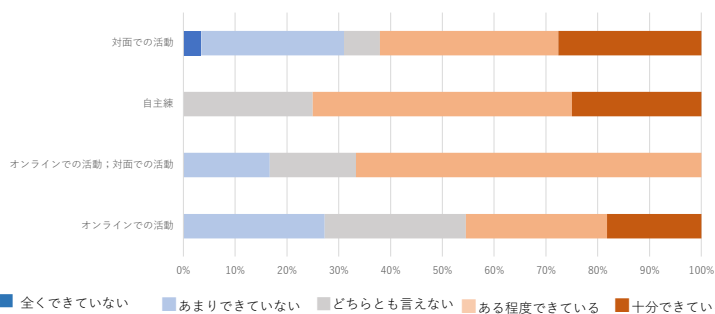


図6 活動形態と交流度合いの関係

対面での活動とオンラインでの活動でカイニ乗分析によって活動形態に変わりがないことが証明された。

$\chi^2=3.18$
自由度4、有意水準5%で棄却域は $\chi_{0.05}^2 > 9.5$



単純集計
～1・2年生編～



単純集計(1・2年生) 1/5

19

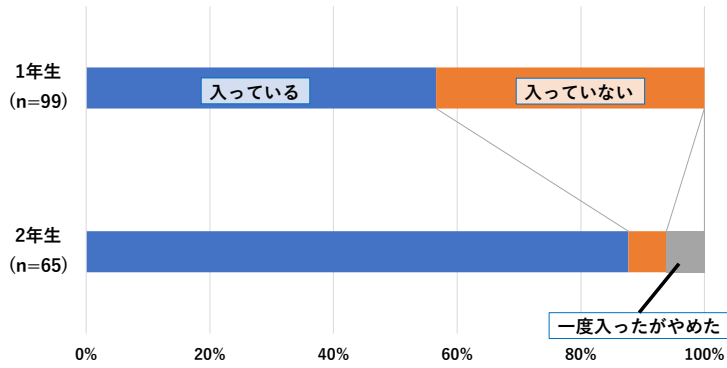


図7 部活・サークル加入の有無



単純集計(1・2年生) 2/5

20

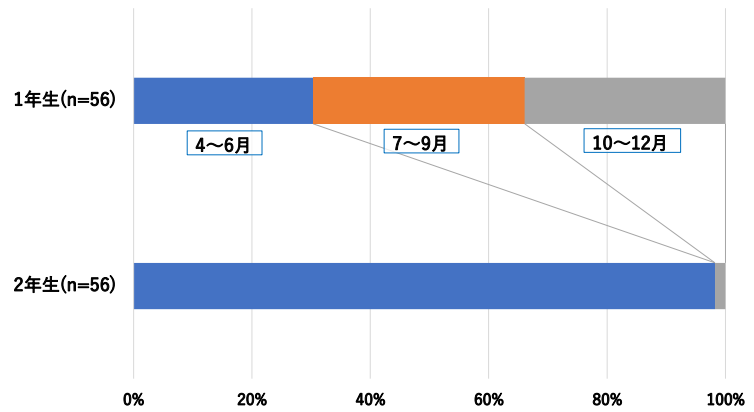


図8 部活・サークルの加入時期



単純集計(1・2年生) 3/5

21

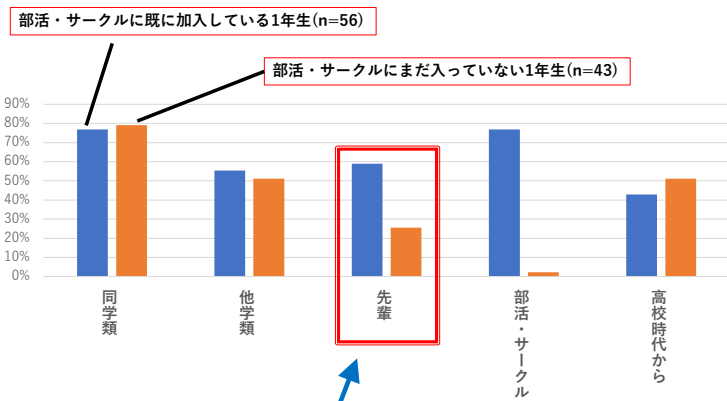


図9 現時点で交流のある人の分類



先輩との交流は部活・サークルに入っている人の方が多い

単純集計(1・2年生) 4/5

22

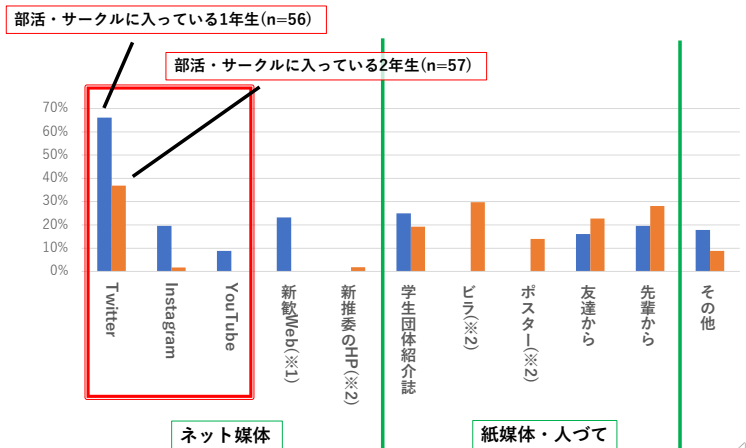


図10 部活・サークルを知った手段の割合

※1: 1年生のみの選択肢
※2: 2年生のみの選択肢



単純集計(1・2年生) 5/5

23

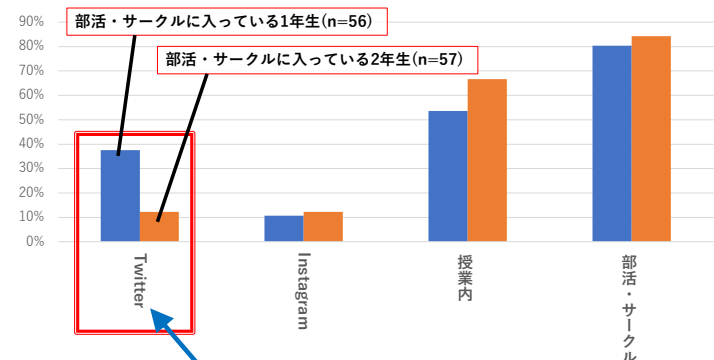


図11 現時点で交流のある人たちとの交流のきっかけの割合

1年生は2年生と比べて他の人との交流にTwitterを多く利用している



1・2年生に関する分析



図12 活動形態ごとの活動満足度

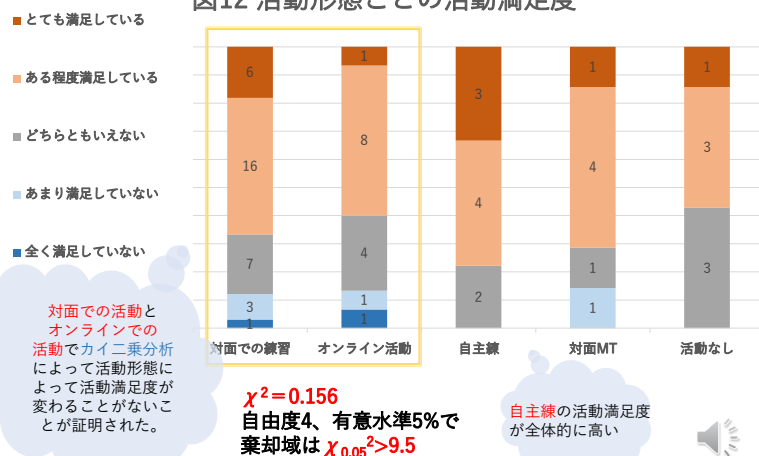


表4 先輩との交流度合いと活動満足度のクロス集計表

1年生向け		先輩との交流				
		全く満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	ある程度満足している	とても満足している
活動満足度	とても満足している				4	4
	ある程度満足している		4	4	14	6
	どちらともいえない	1	5	4	3	1
	あまり満足していない		4			
	全く満足していない		1	1		

カイ二乗検定の結果

自由度：4 χ^2 ：21.84 χ_0^2 ：9.488 $\chi > \chi_0^2$ となるから二つの分類変数間に関係がないという仮説は棄却される

先輩との交流が増えると活動満足度も上がっていることが分かる

表5 同級生との交流度合いと活動満足度のクロス集計表

1年生向け		同級生との交流				
		全く満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	ある程度満足している	とても満足している
活動満足度	とても満足している				4	4
	ある程度満足している	1	2	3	14	8
	どちらともいえない	1	6	4	2	1
	あまり満足していない	2	2			
	全く満足していない		2			

カイ二乗検定の結果

自由度：4 χ^2 ：32.78 χ_0^2 ：9.488 $\chi^2 > \chi_0^2$ となるから二つの分類変数間に関係がないという仮説は棄却される

先輩との交流と同様に同級生の交流が増えると活動満足度も上がる

→交流が増えると活動満足度が上がる

提案内容

部活・サークルは、今までの活動内容にとらわれず、継続的に活動するのが良いのではないかと

考察を踏まえると、今年度の1年生は部活・サークルに対して「何をするか」ではなく、「人と関わる」ことを求めていることが分かった。

→活動を継続して行うことにより交流の場を創出し、大学生活における部活サークルの役割を果たすことが求められる。

→そのためには部活サークルの特性に縛られず多様な活動に努めることが今後大切になってくる。

例えば、

体育系：体育館の競技等で大学で定められたガイドラインを守れない
→トレーニングの一環として少人数でランニング

文化系、芸術系：活動場所がない、ガイドラインを守れない
→外でのレクリエーション活動による密な交流

→オンラインを積極的に利用しコロナ禍以前よりも外向きな活動

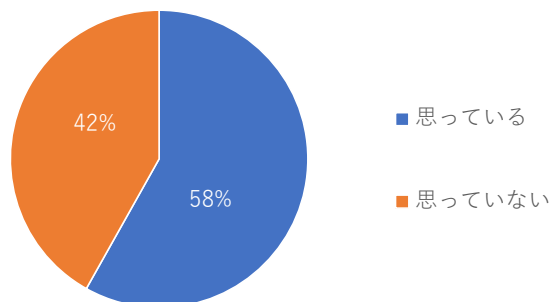


図13 部活・サークルに加入していない1年生対象の部活・サークルへの加入意思の割合

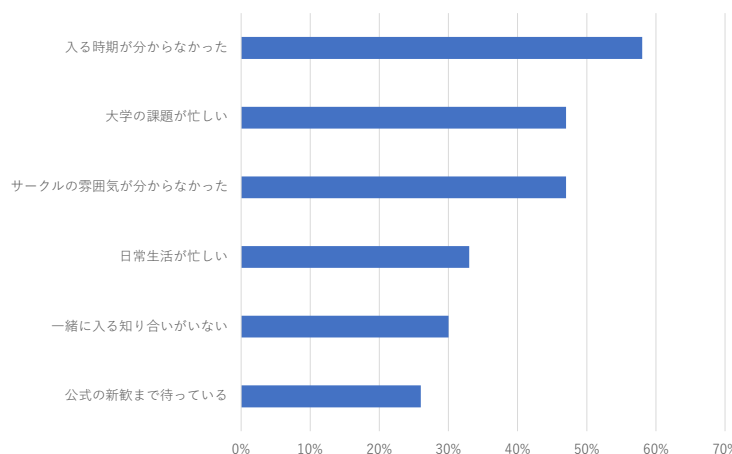


図14 部活・サークルに加入していない理由の理由の割合

一年生と各団体を結びつけるには？

- ・ 今年、例年のように全体としての新歓期間がなかった
- ・ 新歓するしない、いつするかは団体によってまちまち
- ・ 新入生側には、いつから行動を始めてよいかわからない人も存在した

⇒そういった人たちがサークルにたいしてアプローチをかけ始めた時、すでに新歓が終わっている可能性も・・・

⇒入部・入会希望者と部活・サークルとの間でミスマッチが起こらないようにするには？

方法とメリット

1年を通した定期的な新歓（月1回ペースでの体験会など）を行い、加入希望者と部活・サークルを結びつける

⇒新入生側は参加することで交流の機会が増える。

部活・サークルに加入できる機会が増え、途中からでもより抵抗感を感じることなく加入できるのではないかな？

⇒部活・サークル側は、部員の確保がしやすくなると考えられる

また、定期的に行うことで我々の提案する継続的な活動につながるのと同時に、交流の場も創出できる。

双方にメリットが生まれる

学生への提案

部活・サークルの分析から

対面での活動とオンラインでの活動で交流度合いが変わらない

1年生の分析から

対面での活動とオンラインでの活動で活動満足度に**大きな違いはない**
交流が**増える**と活動満足度が**上がる**

→交流を増やすために活動形態に関わらず参加したほうがよい



図15 新型コロナウイルスの発生状況
Yahoo!JAPAN 新型コロナウイルス感染症まとめ

部活・サークルへの参加方法を複数考えておいた方がよい

活動形態に分けて様々な部活・サークルに所属する

メリット

- ・ある団体にコロナによる活動形態の変化があっても他の団体によって交流の場を維持することができる

デメリット

- ・所属団体への思い入れが少なくなる可能性

オンラインのみ実施のサークルを選ぶ

メリット

- ・大学の活動自粛要請に左右されない

デメリット

- ・参加できるのはミーティング中心のサークルに限られる



37

謝辞

39

本演習でお世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。
ご協力ありがとうございました。

アンケートの回答にご協力いただいた1・2年生の皆様、
部活・サークル代表者の皆様

アンケートの配布にご協力いただいた1・2年生の皆様
予備調査にご協力いただいた1年生、部活・サークル代表者の皆様



39

ご視聴ありがとうございました



まとめ

38

withコロナ時代の部活・サークルにおいて求められるもの

部活・サークルに対して

- 活動を継続して行うことにより**交流の場を創出**すること
- 部活サークルの特性に縛られず**多様な活動**に努めること

学生に対して

- 交流を増やすためには活動形態に関わらず参加したほうがよい
- 部活・サークルへの参加方法を増やす



38

参考文献

40

茨城大学 10/19から学内での課外活動を再開一研修会で感染症対策の課題をシェア

<https://www.ibarakiac.jp/news/2020/10/16/0109871.html>

茨城大学 新型コロナウイルス感染症に係る本学の取り組み

<https://www.ibarakiac.jp/generalinfo/covid19/measures/index.html>

千葉大学 ニュース・イベント情報

https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/2020covid-19/post_13.html

東京大学 新型コロナウイルス感染症に関連する対応について

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/general/covid-19.html>

筑波大学ホームページ

<http://www.tsukuba.ac.jp/about/antidisaster/covid-19-list.html>

Yahoo!JAPAN 新型コロナウイルス感染症まとめ

<https://hazard.yahoo.co.jp/article/20200207>

浅井 晃・村上 正康 共訳：P.G. ホーエル著 初等統計学, 培風館, 2019



40

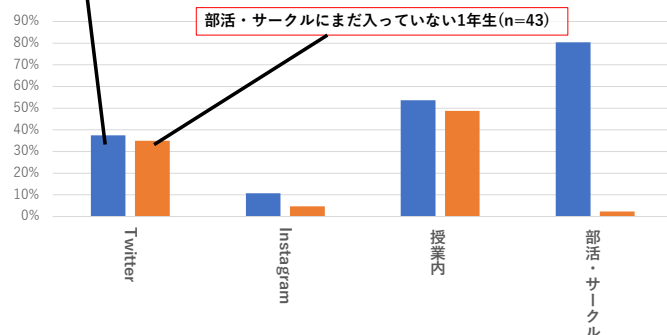
補足:1年生の特徴

42

交流のきっかけ

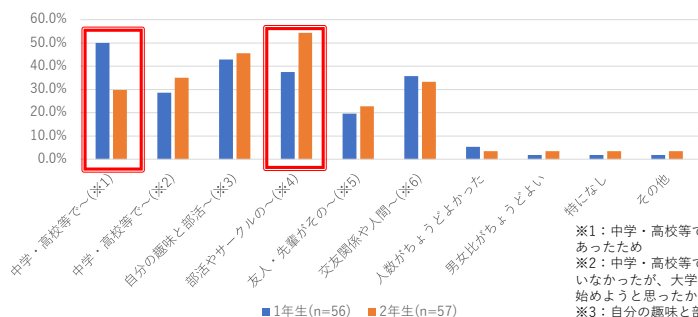
部活・サークルに既に入っている1年生(n=56)

部活・サークルにまだ入っていない1年生(n=43)



- 「部活・サークルで会った」を除いた交流のきっかけは加入・未加入ほとんど同じ

部活・サークルに入った決め手

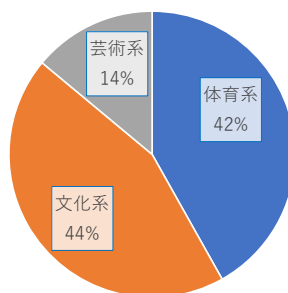


※1: 中学・高校等で経験があったため
 ※2: 中学・高校等でやっていなかったが、大学で新しく始めようと思ったから
 ※3: 自分の趣味と部活やサークルの活動内容がマッチしていたから
 ※4: 部活やサークルの雰囲気良かったから
 ※5: 友人・先輩がその部活・サークルにいたから
 ※6: 交友関係や人間関係を広げるため

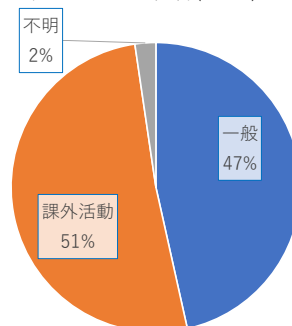
➤ 1年生は雰囲気で決めるよりも経験のある部活・サークルへ

回答者の属性(部活・サークル向け)

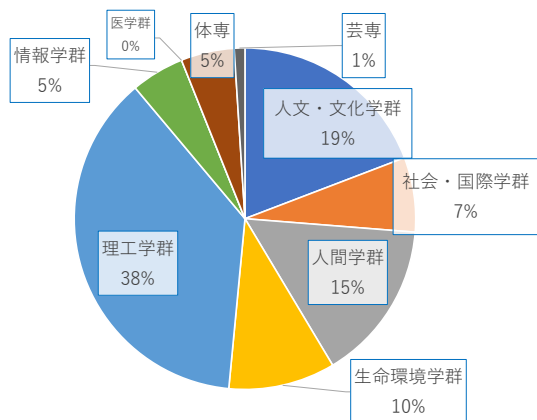
体育系・文化系・芸術系で分けたときの割合(n=43)



一般団体・課外活動団体で分けたときの割合(n=43)



回答者の属性(1年生向け、n=99)



回答者の属性(2年生向け、n=65)

